

近江大津宮遷都一三五〇年記念誌

蘇る地域の宝物

国史跡 山ノ神製陶遺跡を語り継ぐ



大津市協働提案制度 テーマ型提案事業

記念誌発行にあたり

私たちが住んでいる大地を掘れば、いろいろな歴史が見えてくる。667年「近江大津宮」が遷都された頃のこと。ここ山ノ神は、大津宮や寺院に必要な道具を作り国家を支えていた遺跡です。

今、1350年の眠りから目覚めさせ、古代に生きた人々に思いを馳せ、此処にしかない地域の宝物を蘇えらせようと、素人集団の瀬田東文化振興会と大津市との協働で、国史跡 山ノ神遺跡の工房・鷗尾（しび）焼成窯と須恵器焼成窯に加え、国重要文化財指定鷗尾四基をよりわかりやすく立体的にし、窯の構造が解るように一部を断面にし、内側の壁は手形がつくように手で塗り、当時の人々の思いを形にして手作りで復元しました。

古代人の技術の高さを知るとともに人々の暮らしと産業の営みを学ぶことで地域住民の誇りを醸成し、後世に継承します。古代の様子がわかるように平成の地図に、古代の官道や遺跡をLEDで表示し、ナレーションで解説するジオラマを作成しました。古代に習い須恵器作りを地域の皆様と一緒に挑戦しました。

今後も瀬田東地域のシンボルとして大きく育てていただき、広く発信して行きます。地域の皆様の活用をお待ちしています。

終わりに、近隣の皆様や学区民のご指導ご協力を頂き、記念誌を発行できることを深く感謝申し上げますとともにこれからもご協力、ご教示を宜しくお願い申し上げます。

2017年3月10日

大津市瀬田東文化振興会会長 松田 文男

目 次

記念誌発行にあたり

目 次

第1章 古代遺跡と共に生きる地域の挑戦 山ノ神遺跡 プロローグ ～国指定史跡 山ノ神遺跡復元の意義～

1. 山ノ神遺跡今昔
2. 工房跡の復元の様子
3. 窯跡の復元の様子
4. 鴟尾づくりの様子
5. 乾燥小屋の修復の様子
6. 実験窯づくりの様子
7. 須恵器づくりの様子

第2章 古代近江律令国家の槌音

1. 飛鳥から近江への遷都の理由
2. 随筆1
「芭蕉がゆく古代国家を支えた近江・瀬田丘陵鉄の道」
3. 地形ジオラマ「古代浪漫ロード」づくりに挑戦
4. 随筆2
「国づくりを支えた焰～瀬田丘陵の古代製鉄コンビナート」

第3章 育てよう地域のパワー

1. 広げよう山ノ神遺跡の活用
2. 歴史探訪 ～国史跡 山ノ神遺跡を訪ねて～
 - ① 遠近巡り
 - ② 瀬田四学区合同歴史探訪
 - ③ 学区外からの歴史探訪
 - ④ その他
3. 山ノ神遺跡の管理

エピローグ・協力者一覧

年 表
報道記事

第1章

古代遺跡と共に生きる地域の挑戦 山ノ神遺跡



～またひとつ、地域の宝が、光り輝き始めました～

大津市瀬田東学区自治連合会 会長 中村 孝一

源内峠遺跡に続いて、今度は、山ノ神遺跡が新たな光を放ち始めました。古代までさかのぼると、私たちが暮す瀬田東地域では、どんなところに、どんな人たちが暮らしていたのか？

私たちのルーツを辿る挑戦が今も続いています。

これを「復元」という手法で、地域の宝を目で見てわかり易く再現すること、そして、その作り方で学ぶことができます。

そんな地域のみなさんの挑戦が続いて、誰でも後世に語り伝えられる仕組みも明らかになってきました。果敢に挑んでいるみなさんに感謝します。これからもよろしく願いいたします。

国指定史跡 山ノ神遺跡 復元の意義

大津市教育委員会 文化財保護課 田中 久雄

663年、百濟救済のため朝鮮半島に向かった日本は、白村江の戦いで大敗を喫し、唐・新羅連合軍の脅威に晒されました。中大兄皇子（天智天皇）は、対馬・壱岐・筑紫国に防人や烽を置き、水城を築き、さらに瀬戸内海沿いに山城を設置しました。667年には、大和と河内の境に高安城、四国に屋嶋城、対馬に金田城を築き、大和防衛を図りましたが、ついには、都を近江国大津へと遷しました。大津宮はたった5年間だけの都でしたが、これを契機に瀬田丘陵では奈良時代に至るまで、その豊かな森林資源を基にして、須恵器や鉄作りが盛んに行われるようになりました。

ここ山ノ神遺跡でも、国づくりに携わる人々のために、様々な種類の須恵器を大量に焼くようになります。日常品である茶碗や皿・水甕以外に、硯や陶馬・鈴・陶棺、さらには寺の大棟を飾る鴟尾まで焼いていました。遺跡に残されたものは全て失敗作ですが、当時の生活を知る貴重な手がかりを私たちに伝えてくれます。

草津市の野路小野山製鉄遺跡、大津市の源内峠遺跡と共に「瀬田丘陵生産遺跡群」として国の史跡となった今、大津市では史跡整備のため、国の補助金を利用して土地の公有化を進めていますが、全てを公有化するには、まだ10年以上かかりそうです。そこで、平成26年度から28年度にかけて、大津市と瀬田丘陵生産遺跡群復元実行委員会が共に協力して、整備までの間、多くの人達に貴重な遺跡があったことを知ってもらうための復元作業が実施されました。工房小屋、鴟尾を焼いた窯の復元、ジオラマの作成と、創意工夫をこらして、眼で見てわかるすばらしい復元となっています。官だけでも、民だけでも実現できそうに無かったことが、協働事業として実現できました。

今年は大津宮が遷都して1350年になります。この節目となる年に山ノ神遺跡が復元できたことは大変喜ばしいことです。ぜひ多くの人達が現地を訪れて、貴重な歴史を体感していただけたら幸いです。



1. 山ノ神遺跡今昔（昭和頃と平成28年）



山ノ神に想う

大津市瀬田東文化振興会

松田 文男

神さん山で親しまれている山ノ神遺跡。まだ遺跡の発掘があまり進んでいない頃、地権者 故松田次郎兵衛氏が、この地の平坦な部分の木を伐採し、地域の憩いの場「ゲートボール場」と休憩所を建て、「對叡山荘」と命名して地域に開放した。現在、額と小屋の中には何枚かの句が書かれた札が貼って有り、故人も楽しんでいたことが忍ばれます。萬福寺から譲り受けた地蔵菩薩像を山ノ神に安置し、地域の安泰を祈願したと言われている。現在も鎮座し、近隣の人がお参りをされている。

2. 工房跡の復元の様子（2015年2月）



柱に刻みを入れる



柱建て



棟上げ



完成

工房の復元を成し遂げて

大津市瀬田東文化振興会 副会長 牧 賢之介

建築にあたって私達は皆、素人で苦労の連続でした。予算には上限があり小屋の面積、高さや材料、金具の選別と時間がかかりました。遺跡の上なので基礎ができず、盛り土をして固め、水平にして土台を敷き、柱、梁を組んで屋根を乗せ、初めに図面を書いて材料の割出し、木材を一本一本、寸法通りに墨付け切り整えて、柱には柄（ほぞ）を付け、土台梁に柄穴をあけ、屋根組みは実寸法の図面を書き其々の長さ加工が出来、いよいよ仲間達で組み立てが始まりました。苦労の末に工房小屋が立ち上がりました。

腰板は一里山ひかり保育園の園児達が自分で書いた名前の板が張られています。何年か過ぎ、元園児たちが工房小屋を訪ねた時、自分の名前を見つけ懐かしく想う事でしょう。この小屋が、何時までも皆様に愛される工房小屋であることを願っています。

3. 窯跡の復元の様子（2015年9月～2016年1月）



地固め



土台基礎づくり



鷗尾がま枠完成



須恵器がま枠完成



仕上げ



完成

山ノ神遺跡復元事業に参加して

大津市瀬田東文化振興会 一宮 亮一

窯再現の作業は平成二十七年秋ごろだったと思います。少し丘陵になっている為足を滑らしながら、下地作業をしました。型枠造りや、鉄筋を入れる作業をお手伝いするだけでしたが、出来上がってみると参加して良かったという感激で一杯でした。この場所で須恵器を作っていた、古の人々との顔を思い出しながら……………。

4. 鷗尾づくりの様子（2015年10月～2016年2月）

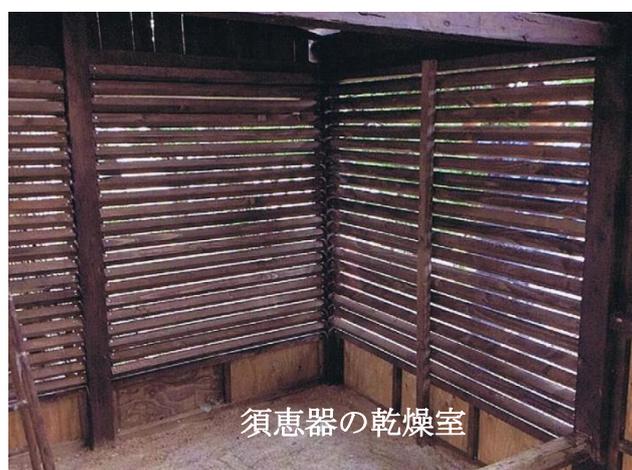
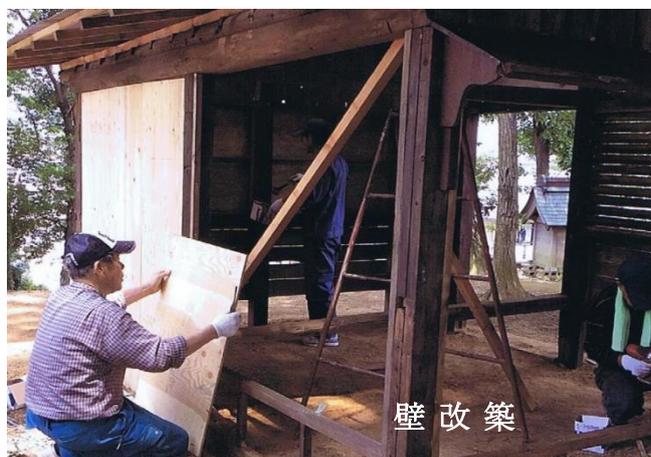


「山ノ神遺跡復元、現代に甦る！！」

大津市瀬田東文化振興会 竹内 稔

先人が残した歴史遺産が、悠久の時を経て、目に見える形で瀬田丘陵の地に甦りました。遺跡の復元を体験し、古人（いにしえびと）の苦労を実感すると共に、優れた技術と精緻な物作りに驚嘆させられました。3年に亘る一連の作業を誇りに思い、私にとって記憶に残る貴重な体験となりました。

5. 乾燥小屋の修復の様子（2016年6月）

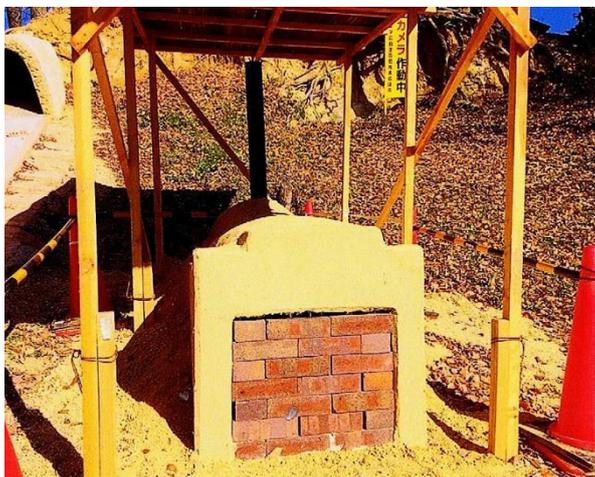
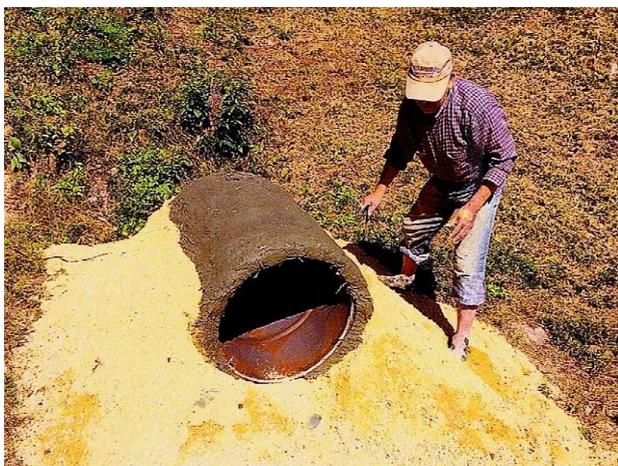


乾燥小屋の修復

地域の皆さんが昔から“ドングリ山”と呼んでいた てっぺんに半世紀になる 地主さんが思いを込めて建てた小屋があります。さすがに永年、風雪や雨に耐えてきましたが扁額の文字「對叡山莊」が悲しそうなので、須恵器の乾燥や草刈りの道具入れとして小屋を修復しました。柱や梁はしっかりしているので再利用し、完成した外壁には保育園園児が可愛い絵を描いてくれました。いつまでも憩いの場として周辺を大事にしたいと思います。親子で一度ドングリ拾いに来てくださいね。

大津市瀬田東文化振興会 崎田 孝行

6. 実験窯づくりの様子（2016年10月～11月）



実験窯づくり

大津市瀬田東文化振興会 崎田 孝行

丘陵の斜面を利用して築かれた復元窯跡の横で、私達文化振興会が実験ミニ窯を造りました。ドラム缶を利用し、瓦用粘土に切り藁（スサ）を混ぜ耐火煉瓦を積み、粘土で押さえ、煙出し煙突を設け、雨対策の小屋を造りました。遠く飛鳥から大津の地に都を移した時、官衙や寺院に杯、高坏、硯、仏器、壺、甕等、大津宮が営まれた7世紀後半の第三四半期が生産のピークを迎えました。このような貴重な場所が大津市一里山3丁目にあり、当時の紋様を陶器に入れマキで火を焚き窯出しまで、須恵器焼成を今後皆さんと一緒に体験しましょう。



7. 須恵器づくりの様子（2017年2月）



須恵器乾燥中



遺跡と自然と

大津市瀬田東文化振興会 谷口 徳男（草生）

山ノ神遺跡は近くまで住宅地に転換されつつも自然が残る。

- ・ 鷗尾出でし窯の遺跡や草いきれ
- ・ 日の当たる刻を待つかに蔦紅葉
- ・ 木の実落つ遺跡復元作業中

夏は草が茂り、秋にはどんぐりが落ち、木に這う蔦が色づく、そんな自然と遺跡を残しておきたい思います。

8. 須恵器を焼く様子（2017年2月）



信楽から松の燃料を購入
乾燥した須恵器を試験窯に入れる



試験窯に入れた状態



午前6時火を入れた



午前8時の様子（崎田・牧）



午前9時交代（谷口・松田）



午後5時の様子（竹内・吉居・一宮ら加わり全員が21時まで作業を実地）



午後8時窯と煙突を密閉する



1週間後須恵器を取り出す（思わず歓喜の声）



1350年の時空を超え見事に完成・山ノ神遺跡の復元(蘇る山ノ神焼き)成功だ！！

初めての試み 大成功！

いったい何が、成功したのか、それは古代の須恵器を窯焼きした初体験のことです。地域の参加者と一緒に、茶碗、皿、鉢など作りあげ、12時間にも及ぶ時をかけて焼き上げました。立派な焼き物ができたのです。大成功でした。

（吉居 記）

ものづくりの力

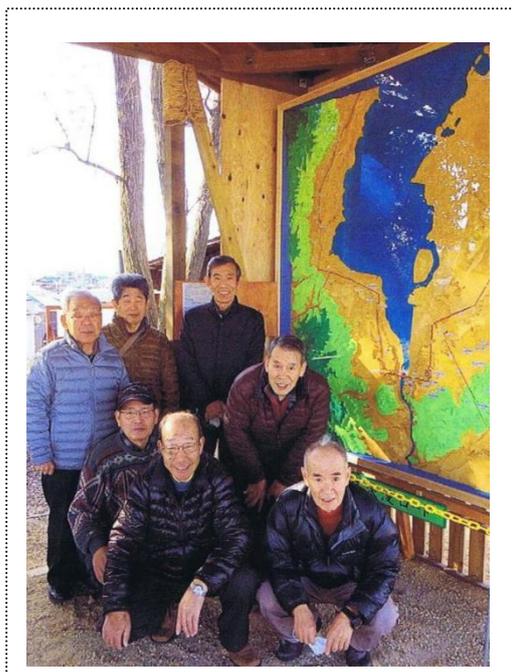
～近江大津宮を支えた瀬田丘陵生産遺跡群～

大津市教育委員会 文化財保護課 田中 久雄

「よ～し、近江だ遷都だ」667年、中大兄皇子は決断した。中臣鎌足と進めてきた政治改革は飛鳥の地を離れ、近江大津宮で実行されることとなった。この遷都に伴い、多くの人びとが近江に集まり、大規模な製鉄・製陶が瀬田丘陵で開始されることとなった。「よ～し、わしらで復元や」1350年の時を隔てた現在、瀬田丘陵生産遺跡群では、熱心な市民の手によって製鉄炉や須恵器窯、鴟尾などの復元が行われ、目の前にわが町の歴史を追体験し、楽しく学習できる空間が出現している。「よ～し、次は何しよー」ものづくりの精神は未来永劫続くのです。

第2章

つちおと 古代近江律令国家の槌音



立体地図の製作依頼を受けて

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 神保 忠宏

瀬田東文化振興会のスタッフから、瀬田丘陵を中心とする大津南部の遺跡分布や古代の情報がわかる立体地図を造りたい、という相談があり、立体地図の作成方法を一緒に考えました。建物内とはいえ吹きさらしの場所で展示されることから単純な構造になるように工夫しました。

また、見やすさ・わかりやすさを目標に、現代の地形図をもとにして等高線を少なくしながらも、遺跡の位置や古代の官道など必要な情報を盛り込んだ立体地図になりました。さらに、遺跡の場所に電球を備えてスイッチを押せば点灯するなど、スタッフの工夫が盛り込まれた楽しい展示物になりました。



神保氏との最終打ち合わせ

1. 飛鳥から近江への遷都の理由^{わけ}

滋賀県立安土城考古博物館
大道 和人

近江大津宮遷都の理由については、近江が、①防御性が高い、②交通の要に位置する、③高句麗と連携ができる、④農業生産と鉄生産が盛ん、⑤渡来系集団が集住していた、⑥飛鳥での古いしがらみからの脱却ができる、などの地域的特性が挙げられてきました。

瀬田東学区には、大津宮遷都の時期に大規模な鉄生産がおこなわれた源内峠遺跡があります。源内峠遺跡は、大津宮遷都との関係で言えば、上記の②④⑤に関連する製鉄遺跡です。現在、源内峠遺跡には地元の皆様のご尽力によって、製鉄炉が復元されています。

『日本書紀』天智天皇9年(670)条には「是歳造水碓而冶鉄」とあります。大津宮の近くで、水力を利用した最新技術の鉄鉱石粉碎装置を設置し、鉄生産が行われていたことが考えられます。源内峠遺跡は、「是歳造水碓而冶鉄」と発掘調査成果を結び付けることのできる重要な遺跡で、国の史跡に指定されています(史跡 瀬田丘陵生産遺跡群源内峠遺跡)。大津宮遷都の頃から、全国的に鉄生産を裏付ける遺跡が多くなります。折からの国内政治改革と、大陸との緊張関係の中で、国家の施策として製鉄振興策がとられたと考えられるからです。瀬田地域を中心とする古代近江の鉄生産は、古代日本の鉄生産の核・拠点となった可能性が高いと思われます。

大津宮遷都と瀬田地域との関係を見ると、大津宮遷都の理由として、源内峠遺跡をはじめとする瀬田地域の鉄生産が重要な意味をもっていると考えられます。大津宮遷都をおこな



った天智天皇(中大兄皇子)は、飛鳥でそして大津宮で、精密装置である「漏刻」を造ったことでも有名で、科学技術に傾倒が深かったことが指摘されています。源内峠遺跡の場所に立つと、最新技術を導入し、軌道に乗った製鉄操業を見て、誇らしげで満面の笑みを浮かべた、天智天皇の顔を彷彿できそうです。

2. 「芭蕉がゆく～古代国家を支えた近江 瀬田丘陵の鉄の道」

前田 紀子

私は、旅する俳諧師とも呼ばれている松尾芭蕉。近江の風光と人々との交流を愛した私だが、近江に惹かれるのはそれだけではない。瀬田川に架かる唐橋に立つとよく分かる。西に近江大津宮、東に近江国庁が鎮座した、飛鳥から奈良時代の古代パノラマから、古人の息づかいが聞こえてくるのである

かつて律令制国家の基礎づくりを支えていた源流が、近江の国力と瀬田丘陵の大製鉄コンビナートであった。私が近江を選んだと思ってきたが、近江が私の歴史の静寂から、強く引っ張っていたのである。

《日本の礎が気づかれた近江の地 近江大津宮》

667年、近江大津への遷都は奇策であったが、内外の脅威に備え安定した国家体制を築くため、中大兄皇子の所思が揺らぐことはなかった。近江は食糧・森林資源が豊富なだけでなく、琵琶湖の水運とともに主要な道が合流し、人や物そして文化が活発に行き来した。そして、何より最高技術の製鉄があった。皇子は遷都を思い描いた時から、瀬田丘陵での大製鉄コンビナートの開発を進めていたのであった。



遷都を果たした皇子は天智天皇として即位するが、崩御の翌年、皇位をめぐる壬申の乱で大津宮は終焉を迎えることとなる。5年数か月の都であったが、律令国家建設に生涯をかけた天智天皇の思いは、その後の国づくりに大きな影響を及ぼしていく。

私は健脚の歩みを止め、大津宮を偲んで柿本人麻呂が詠った「ささなみの 志賀の大わだ淀むとも 昔の人に またも逢はめやも」を口ずさむ。都の儂さを思う時、琵琶湖に舞う桜吹雪はなおさら美しい。私の旅を慰め励ましてくれた桜は、国づくりの先頭に立ち、古代を駆け抜けた天智天皇を今なお慰め続けている。

「四方より 花吹き入れて 鳩のうみ」(芭蕉)

《古代国家の国づくりと発展を支えた近江 瀬田丘陵の鉄》

私は時折唐橋の上から、夕闇の迫った東空に赤い焰が一瞬見ることがある。「源内峠製鉄炉」の方角である。天智天皇が心血を注いだ国づくりを、鉄で支えた瀬田丘陵。鉄の道は、「源内峠」から北東へ「木瓜原」、さらに北の「野路小



野山」へと、燃料の森林資源を求めて移動する度に、技術は研鑽され量産化に成功し、一大製鉄コンビナートへと発展させている。

何より彼らを突き動かしていたのは、国家の防衛と繁栄に携わることへの、自負と一体感であったに違いない。その高揚は、国家の最高幹部の高覧を仰ぐ時に、最高潮に達したことだろう。

こうして、近江の製鉄技術は古代国家建設の重要な使命を担いながら、東国へと鉄の道を北上させていく。それはあたかも、私が見たどった奥の細道さながらに・・・

《大国近江の威信 近江国庁》

奈良時代、瀬田丘陵の一角のひとときわ小高い丘に築かれたのが、近江の政治の中心となった近江国庁である。私は常々この小高さが不思議でならなかったが、ここに立つとよく分かる。



この丘は、大国の威光を視覚的に示す装置としてふさわしい。眼下の琵琶湖に行き交う荷船の多さが大国の証。都や東大寺の造営に必要な材木が、周辺の山々から切り出され、瀬田川から運ばれていく様は圧巻ですらある。

さらに、国庁の威光は高さだけではなく、広大な敷地と、宮殿を模した建物群や一直線に並んだ12棟もの大倉庫群も、近江国の威勢を見せつけるに十分だった。



古代国家は、藤原仲麻呂など国の幹部を代々国司として派遣してきた。しかし、仲麻呂がこの丘で見ていたものは大量の船でも途切れることのない拝謁客でもなかった。

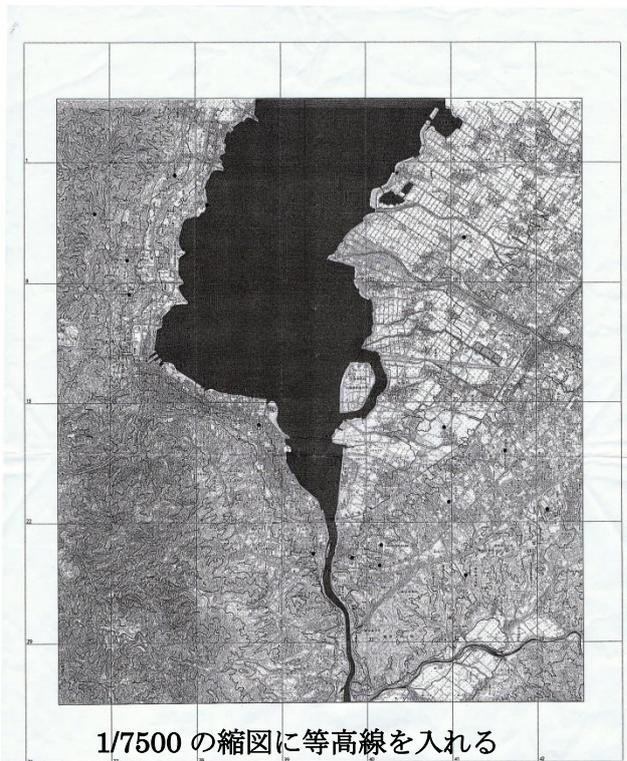
それは、野望だった。とりわけその野望に最も力を貸すのは、瀬田丘陵の製鉄であった。曾祖父藤原鎌足や祖父不比等、父武智麻呂と続く、古代政界のサラブレッドは、後に一国の宰相となっても、終生近江と鉄に執着し続けていた。

そして今、1300年を隔てた瀬田丘陵に、古代製鉄炉を甦らせ、まちづくりに活かそうとする人々がいる。古代国家を牽引した誇るべき近江大津の先達に、敬意と感謝を込めながら。これだから私は、近江の人達を愛さずにはいられないのだ。

私の気に入りの唐橋は、ただ見ているだけでも飽きることはない。古代から、東国と京都を結ぶ^{まつりごと}政の喉元として、幾度となく天下分け目の瞬間を見てきた。

「^{ものふ}武士の やばせの船は早くとも 急がば回れ せたの長橋（唐橋）」けれど私は急いではない。唐橋の上で、遙か古代から聞こえてくる息づかいに耳を旅姿を現代に変えた私とは、誰も気づきはしまい。「ゆく春を 近江の人と 惜しみける」（芭蕉）

3.地形ジオラマづくりに挑戦 (2016年5月～2016年11月)



ジオラマ作りに係って

大津市瀬田東文化振興会

吉居 紀生

大津琵琶湖西岸の天智天皇による「近江大津宮」から瀬田川を東に渡り、日本で初めて発掘された「近江国府跡」その周辺の各史跡群、瀬田丘陵の源内峠から草津野路方面へと連なる「鉄須恵器の生産遺跡群」など網羅したジオラマが完成し、山ノ神の工房小屋に設置することができました。制作過程には色々と難儀もありましたが知恵を出し合い完成にこぎつけました。地域の皆さんが山ノ神までお運びいただければ嬉しい限りです。



等高線の確認



貼り付け



LED 表示ランプの取り付け穴を開ける



LED 表示ランプの配線



古代浪漫ロード完成

地形型ジオラマの遺跡（LED）表示を引き受けて

連 敏夫（大萱 2 丁目）

瀬田文化振興会長より、「山ノ神遺跡の復元をしているので遺跡表示の配線関係を手伝って」の依頼がありました。会長より概略をお聞きし、現地見学をして、ソーラーパネルを設置。なんとかお手伝いできそうだと、安請け合いをしたが、部品集め、プリント基盤の製作、仮セット製作、仮動作テスト、点滅回路（2 回路）・点灯回路（2 回路）と進み思うように出来ました。音声案内放送（安価にするため市販ラジカセの CD を利用）の配線図が手に入らず、現物を分解し配線を組み換えて、うまく動作しました。お手伝いで現地にセットし電源オン正常に動作。やれやれ安心しました。ありがとう。良い勉強をさせていただきました。

4. 「国づくりを支えた焰～瀬田丘陵の古代製鉄コンビナート」

西垣 知美

【新天地—近江大津宮で響く新しい国づくりの槌音】

天智天皇の近江遷都は唐突で、人々に大きな衝撃を与えたが、“近江国は宇宙^{あめのした}に名あるの地^{ところ}なり。地^{おほ}広く人衆^{おほ}くして、国富み家^{そな}給う。”と藤原氏も賛嘆したように土地が広く、人口も多く、国が豊かである。さらに近江は、太陽が登るとき湖面が黄金色に輝き、沈むとき茜色に染まる。湖と山なみの一体感が形づくる美しい風景は、多くの人々の感性を刺激し高めたであろう。

近江は、交通の要衝であることから、豊かな生産力があり、この地で天智天皇は、後に栄華を極める藤原氏の始祖鎌足と共に新たな国づくりを進めた。全国規模の戸籍である「庚午年籍」がつくられ、近江令が施行された。これにより、全国津々浦々の人民を把握し、その土地に固定させることが可能になり、中央集権国家の確立の礎をつくった。

新都造成のため、日々多くの人、物資が行き交い、瀬田丘陵の製鉄コンビナートから立ち上る炎と煙は、希望あふれる逞しい槌音として響いていたに違いない。

【焰赤々と—政治と経済を支えた瀬田丘陵生産遺跡群】

瀬田丘陵生産遺跡群には、源内峠、木瓜原、野路小野山、山ノ神等の遺跡がある。燃料となる森林資源が豊富であり、瀬田川の水運により、製品の運搬も容易であった。いずれの遺跡も大規模で、国家権力が介入しなければ築きえないものである。

鉄鉱石を砕き、燃え盛る炎の中に投げ入れて溶かす。炎を絶やさないためにフイゴを踏む勇ましいかけ声とともに、子どもたちがはしゃぐ声も聞こえる。そこには日々逞しく生きる庶民の息づかいがあった。

瀬田丘陵の官製コンビナートで確立された製鉄技術は官道である東山道を通じて、関東、東北へと伝わり、古代国家の繁栄にもつながったと言っても過言ではない。



【丘陵にそびえたつ壮麗な近江国庁】

瀬田川東岸に近江国を統括する国府が置かれていた。最高の建築技術を用いた瓦葺礎石建物など、時の近江国守藤原仲麻呂の強力な権力のもと、荘厳な国庁として整備された。

大津宮遷都以降、近江を支配し続けた藤原一族である仲麻呂は、浅井・高島郡の鉄鉱山の採掘権を得て、自らの経済基盤も固めた。



大規模で異国風の「瀬田唐橋」を渡ると、直線で国庁につながり、その先には見上げる位置に門がそびえ建っていた。

また、前方の丘陵上には12棟の大倉庫群が横一列に連なり人々はこの威容な建物を権力者の圧巻する力として仰ぎ見ていたのであろう。

【人々のパワー】～ものづくり日本の原点～

国づくりのため、人々のパワーが結実した「瀬田丘陵生産遺跡群」は、「ものづくり日本」の原点である。これらは、人の心を捉えて地域住民の誇りとなり、実行力のパワーとなって古代製鉄炉や穴窯、^{とび}嶋尾を復元させた。訪れた人々は、千三百年前へタイムスリップを楽しむことができる。



【水のパワー】

瀬田丘陵の周辺には古代東山道が通り、瀬田川に通じている。各地を結ぶ陸上・湖上交通の要衝には^{うまや}駅や湊があり、「市」も開かれていた。多くの人々やさまざまな物資がつどい、大いににぎわっていたことであろう。

近江が誇る、琵琶湖の「水」の力は、物資の流通のみならず、「人と人との交流」や「地域と地域を結ぶ」とともに、「瀬田の唐橋」や「近江八景」など多くの歴史文化に触れることが出来、来訪者に心の安らぎと憩いの「場」を与えてくれる。

【交流のパワー】～蘇る古代のロマンと今を生きる人と～

古代の近江は瀬田橋で国内の人々とつながり、朝鮮半島の国々や唐などとも交流を進めていた。この交流のパワーは近江のものづくりの源で、その情熱のパワーで蘇った遺跡は、未来を担う子どもたちを育み、多くの来訪者の方々との「交流の場」として積極的な市民運動が繰り広げられている。

また、過去と現在を結ぶかのように、地下に木瓜原遺跡が眠る大学において、IT技術を駆使し、古代遺跡の3D化や、地下遺構の可視化の研究がおこなわれている。その技術により当時の姿を復元することで、より一層親しめる遺跡となろう。大学在学の留学生も、日本の文化に触れ、母国へ紹介する活動にも積極的である。



さらにこの地には、鍛造の世界的な工場や鉄製品製造の鉄工房、当時と同じ土を使う陶芸工房が存在している。ものづくりを通して、地域の活気に一役かっていることは、古代の人たちの延長上に今の私たちの生活があることを意識させてくれる。

古代国家を支えた瀬田丘陵生産遺跡群には、日本国誕生の魁として活躍した、時の権力者たちの夢の足跡とともに、それを支えた逞しき庶民の息づかいが感じられる。

市民と共に守られ活用され、先人が遺した郷土の財産を未来に継いでいくことで、これからも多くの人たちに歴史の感動を与え続けるであろう。

第3章

育て広げよう地域のパワー



～国史跡 山ノ神遺跡を育て広めよう！！～

大津市瀬田北学区自治連合会 会長 坂口 源吉

私が山ノ神遺跡を知ったのは、平成24年度町会副会長をした時に、山ノ神遺跡周辺の草刈を年間2回、地域の皆様方の協力を得て作業を行っていることを知りました。通称どんぐり山とか神さん山で親しまれているこの山ノ神遺跡。667年飛鳥から近江大津宮へ遷都され、1350年の記念すべき年に偶然にも地元文化振興会の皆さんが3年間に渡り、遺跡を地上へわかりやすく立体的に復元されましたことに敬意を表します。

この貴重かつ重要な財産を次世代に語り継ぐため、東学区、北学区、力を合わせて大きく育て、広げていきましょう。

皆様の応援よろしく願いいたします。



市長視察



思い思いに絵を書いた凧揚げ



「一里山ひかり保育園は昔から瀬田東学区の中で見守られ
“地元”の人達との交流があります」

一里山ひかり保育園

毎年、文化振興会さんのご協力の下、山ノ神遺跡で色々な行事に5歳児（年長・ばんだ組）を中心に参加させて頂いています。山ノ神遺跡は住宅の多い瀬田の地域の中でも自然がたくさんある貴重な場所です。

昨年、平成27年度は柿渋染めを中心に取り組みました。遺跡内にある柿の木から柿を取り、柿渋を作りました。ろうそく染めしたTシャツを柿渋で染めると、世界に一つだけのオリジナルのTシャツができました。お気に入りのTシャツを着て、運動会に取り組みました。その他にも凧揚げや干し柿作りも行い、四季折々の季節を感じながら活動を楽しみました。

行事以外でもどんぐり拾いやネイチャーゲームなど散歩に行き、自然の中で自由に遊ばせてもらっています。窯を作っている所も間近で見せてもらいました。

5歳児は地域活動にも興味を持ち始める年齢です。地域の方と山ノ神遺跡で取り組んだ活動が瀬田東学区以外の子ども達もいる中で、いつかは別々の道を歩く子ども達に「小さい時にどんぐりいっぱいので遊んだな」「小さい時に自然であそんだな」という共通の思い出に少しでも繋がればと思います。

これからも子ども達にとって山ノ神遺跡が身近な場所であってほしいと思います。

私たちばんだ組は、小屋の壁に絵を描かせて頂きました。筆で絵に色を塗るのは慣れない作業でしたが、文化振興会の方々に手伝って頂き、子ども達も取り組みを楽しんでいました。

また、虫捕りやどんぐり拾いなど自然に触れて遊ばせてもらっています。貴重な体験をありがとうございます。

2.歴史探訪 ～国史跡 山ノ神遺跡を訪ねて～

①遠近巡り 【今、語り継ぐ遠近（おちこち）巡り】

- 1) 第1弾 平成24年 9月29日（土）
古代産業発祥の地 明治・昭和・平成を歩く
- 2) 第6弾 平成26年12月 6日（土）
飛鳥～奈良・国を支えた大規模製鉄遺跡を巡る
- 3) 第8弾 平成27年11月28日（土）
古代アイアンロードを行く



- 4) 第11弾 平成29年 4月 8日（土）実施決定
びわ湖の春が淡海（おうみ）の古代遺跡へと誘う！



②瀬田四学区合同歴史探訪

・平成28年11月19日（土）瀬田四学区「歩こう会」
瀬田四学区（東、北、南、瀬田）ではシニア層や各自治会の同好会他地域の歴史見学、勉強会とウォーキングを兼ねて実施しています。

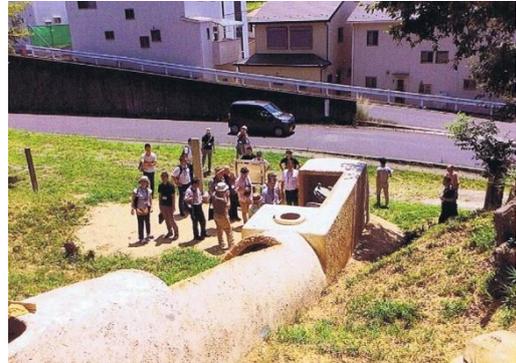
依頼があればメンバーがボランティアガイドを務めています。



③学区外からの歴史探訪（平成28年度関係）

・平成28年 7月30日（土） 35名

滋賀大学 「地域活性化プランナー-学び直し塾」



・平成28年 8月23日（火） 22名

岡山県瀬戸内市邑久町 「寒風古窯跡群」 ボランティア協議会他



・平成28年12月12日（月） 10名

京都府船井郡京丹波町本庄

街づくり視察

本庄区長他



④その他

地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校も毎年見学や勉強会、出前講座、体験等実施しています。まずは、身近な地域の貴重な文化財を知ることから始まります。



一里山ひかり保育園児との交流



瀬田東幼稚園児との交流

1.響く子供たちの声に次代への希望！

梅村 正

我が家の近くの山ノ神遺跡に子供たちの声が響いている。復元された須恵器窯などを眺めていると近江遷都と新しい国づくりをめざした活気あふれる人々の働く姿や賑やかな声が聞こえてくるようである。長期間、苦労を重ね復元に取り組まれた松田会長はじめ皆さんの熱い願いが子供たちの声から伝わって来た。



2.山ノ神遺跡とのかかわり

南大萱資料室長代行 國松 巖太郎

平成14年「南大萱史」編纂にかかわりはじめた頃、山ノ神遺跡のどんぐり山をスケッチし窯や工房のあったことを知り、それを絵にしたものが右図のものです。大津に都ができることに大いに関わったことを知るきっかけになったものです。



3. 山ノ神遺跡の管理

年4回の草刈りと工房の管理（柱・梁・腰板に難燃塗料の塗布）の様子



腰板に難燃塗料を塗布



瀬田東の歴史を活かし更なる街づくりを

瀬田東街づくり地域推進会議 代表 深田 稔

山ノ神遺跡復元完成おめでとうございます。この復元事業にご尽力戴いた多くの関係団体の皆さんに心より敬意を表します。この遺跡復元を機に地域の歴史に触れて戴き、歴史を通じて交流の場が更に広がるよう、皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思っております

山ノ神遺跡の周辺にレンゲの種を蒔きました

大津市瀬田東文化振興会 中村 佐市郎

山ノ神遺跡では窯跡の復元作業が終わりました。周辺にはまだ発掘調査の終わっていない多くの遺物が眠っているように聞いています。周辺は放置すればすぐに草薺になるため草刈を融資で年数回行っております。草刈の軽減と美化を兼ねて秋にレンゲの種を蒔きました。春には周辺一帯がレンゲの花畑になっている事を願っております。

山ノ神遺跡へ是非お越しく下さい。

エピローグ

～始まりは、電話の一言から～ 大津市瀬田東文化振興会 西本 和正

「次は山ノ神を何とかしたい。頼む。」

三年前の今頃、電話の向こうで、松田会長がいつものようにポツリと話されたのが、この物語のスタートでした。

「解りました。」と安請け合いしてからが大変です。山ノ神に関わる文献を探し回り、文化財保護課の田中さんや多くの旧来の友人に聞きまくり、必死の調査を行って、私たちのドングリ山がどんなに凄い遺跡であるかを文章にしたため、資料を揃えて市民協働事業に応募しました。

その結果何とか採択され、この三年、明るく、ひた向きで、何とも言えない職人肌の多くの先輩や仲間の力が結集され、今ここに「山ノ神遺跡復元事業」が結実しました。感慨もひとしおです。でも、本当は、これからが正念場です。

～これが本当の「協働」です～ 瀬田東公民館 下 茜、清水 琴野

一緒に取り組ませて頂く中で、皆さんの多彩さとパワフルさには圧倒されました。絵や文章に表現される方・進め方を考え企画誘導される方・鷗尾や穴窯を実際に作ってしまう方・そして、後方支援をされる方など、それぞれが自分の得意分野を活かしながら、民や公の垣根を越えてひとつの目的に向かってみんなで突き進まれた結果が、山ノ神遺跡という地域の宝を目に見える形で蘇えらせたものだと誇らしく感じております。まさにこれが本当の「協働」だと思います。

三年間お疲れさまでした。これからも地域に愛される山ノ神遺跡となるように、一緒に頑張りましょう。

協力者一覧 (敬称略)

滋賀県安土城考古学博物館	学芸員	大道 和人
(財) 滋賀県埋蔵文化財保護協会		神保 忠宏
大津市教育委員会文化財保護課	課長補佐	田中 久雄
大津市瀬田北学区自治連合会	会長	坂口 源吉
大津市瀬田東学区自治連合会	会長	中村 孝一
大津市瀬田東街づくり地域推進会議	代表	深田 稔
大津市瀬田東公民館	主任	下 茜
	専門員	清水 琴野
大津市一里山公園緑のふれあいセンター	所長	中村 公昭
大津市瀬田東文化振興会	会長	松田 文男
牧 賢之介・中村 佐市郎・崎田 孝行・吉居 紀生・谷口 徳男・竹内 稔		
一宮 亮一・西本 和正 ・本田 裕是		

南大萱資料室 ・ 大萱財産区協議会 ・ 山ノ神地権者 ・ 萱野神社

前田 紀子・連 敏夫 (大萱2丁目) ・奥村 眞由美・西垣 和美・梅村 正

年 表

～ 山ノ神遺跡復元 ～

名 称	年	月 日	作 業 内 容	摘 要
工房小屋				
	平成26年	11月20日	木材搬入	緑のふれあいセンター
		11月24日	土台材移動	
		11月25日～27日	木材墨付け、刻み加工	
		12月1日～3日	〃	
		12月5日	〃	
			夕方材料移動	
		12月9日	敷地整地、転圧	
	平成27年	1月7日	腰板切断(名前書)	ひかり保育園
		1月13日～14日	刻み加工	
		1月16日	確認済証交付	山ノ神遺跡へ加工材搬入
		1月17日	地鎮祭	
		1月19日～21日	基礎、土台、柱建方	
		1月23日～29日	梁、屋根下地他	
		2月2日	完成セレモニー準備	
		2月3日	完成セレモニー	ひかり保育園103名他
		2月9日	屋根下地ラス貼他	
		2月19日	屋根下地モルタル他	
		2月20日	セメント他搬入	
		2月23日～25日	屋根仕上げ、片付け	
		3月13日	屋根シーラー塗	
		3月16日	屋根シーラー塗	土間山土均し
		3月17日	屋根仕上げ塗装	
		4月2日	完了検査	現地 14:00
		4月3日	完了検査	シール(証) 貼付

穴窯復元	年	月 日	作 業 内 容	摘 要
	平成27年	10月5日～10日	位置決め、工法打合せ	整地、転圧、土間コン打他
		10月13日～15日	型枠解体、足場設置他	
		10月18日～19日	ブロック搬入、基礎型枠	配筋、コンクリート打
		10月27日～29日	基礎型枠解体、壁CB積	壁型枠組
		11月4日～6日	壁型枠組	
		11月10日～13日	壁型枠組、天井型枠組	
		11月16日～17日	天井型枠組、鉄筋組	
		11月19日	躯体生コン打設	
		11月20日～23日	コンクリート養生	
		11月24日	型枠解体(外部)	
		11月25日～26日	型枠解体(内部)	シビ作成(枠他)
		11月30日	型枠解体、外部モルタル下塗	残材片付
		12月1日～4日	外部モルタル下塗	シビ作成、モルタル塗
		12月7日～10日	シビ(部位)作成、中塗り	
		12月14日～19日	シビ各部位組立	シビ下部穴明け他
		12月21日～22日	シビ作成、移動	
	平成28年	1月12日～14日	穴窯仕上げ(内外部)	階段仕上げ
		1月16日	穴窯仕上げ(内外部)	下段土間仕上げ
		1月18日～19日	シビ仕上げ	2基完成
		1月26日～27日	シビ仕上げ	2基完成
		1月28日	敷地真砂土整地	
		2月1日	シビ現地移動	
		2月2日	敷地真砂土整地、片付け	
		2月17日	復元完成イベント	凧揚げ大会(保育園園児)



大津市瀬田東文化振興会

Otsu City Seta East Culture Promotion